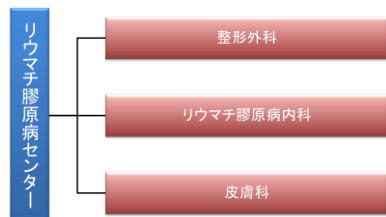
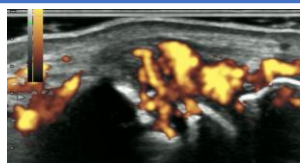


1. リウマチ膠原病センター

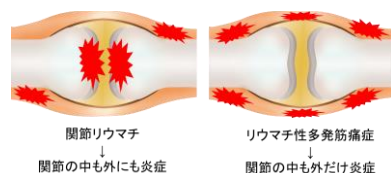


- 2016年10月に内科、皮膚科、整形外科の医師で構成されるリウマチ膠原病センターを設立。
- この3診療科によるリウマチ膠原病センターは全国でも珍しいが、理想の組み合わせといえる。
- 県内の医院や病院から紹介しやすくなり、早期診断、早期治療に結びつく。
- 診療科の垣根を越えた連携は、患者さんのメリットに直結し、若手医師の育成にも貢献。

2. 関節エコーによる関節炎の早期診断・病勢評価



関節エコー画像



関節リウマチとリウマチ性多発筋痛症の鑑別

- 関節エコーによる関節リウマチをはじめとする関節炎の的確な早期診断。
- 関節エコーを用いた数々の臨床研究の構築および論文化。
- 関節リウマチとリウマチ性多発筋痛症の違いを関節エコーを用いて世界で初めて証明。

3. ANCA関連血管炎の最新治療の開発・導入

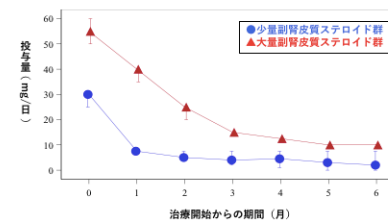


図1 副腎皮質ステロイド投与量の推移

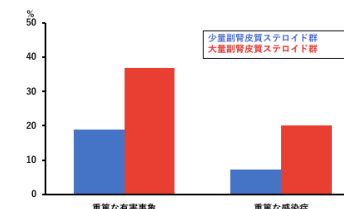
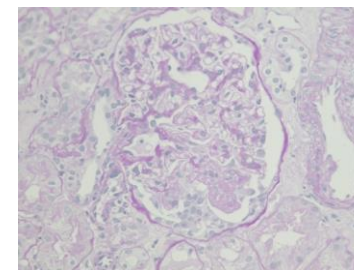


図3 有害事象の発生割合

- 医師主導型臨床研究によりANCA関連血管炎の新たな治療方法を開発。
- 寛解導入に必要とされたステロイドの量をリツキシマブの併用により大幅に削減。
- ステロイドの量は従来の半分で、寛解導入率は同等レベル、副作用は半減。

4. ANCA関連血管炎の腎予後予測



腎病理：細胞性半月体

- ANCA関連血管炎221例の腎病理所見を検討。症例数は世界屈指。
- 生命予後と関係する腎機能と腎病理の関係を解析。
- 糸球体病変のうち細胞性半月体、線維細胞性半月体、線維性半月体、硬化糸球体がほぼ均等に関与していることが判明。
- 全糸球体におけるこれら4つの%の合算が43%以上であった場合、5年後に末期腎不全至ると解析。